

2.5 社会経済情勢の変化

2.5.1 事業実施地域の人口変化

(1) 流域の人口変化

昭和30年(1955)から平成17年(2005)までの間の流域関連市町村ならびに福井市、坂井市、永平寺町における人口と世帯の推移は、以下に示すとおりである。

昭和30年の流域関連市町村の人口は約65.8万人であり、50年間に約6.2万人、約9%の人口増となっている。

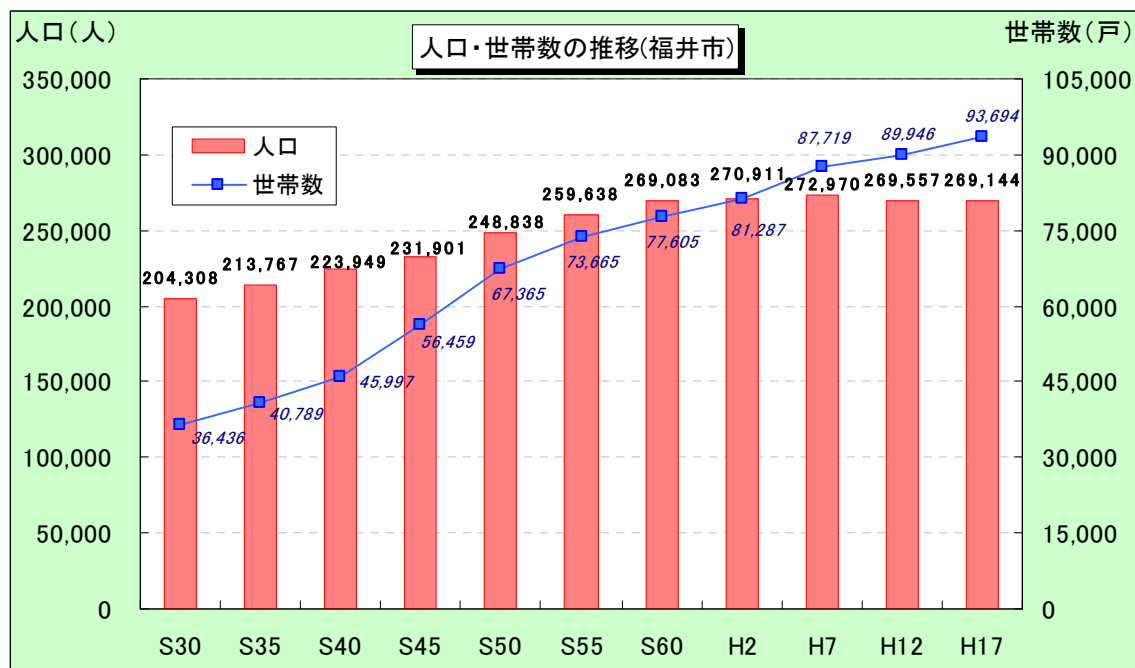
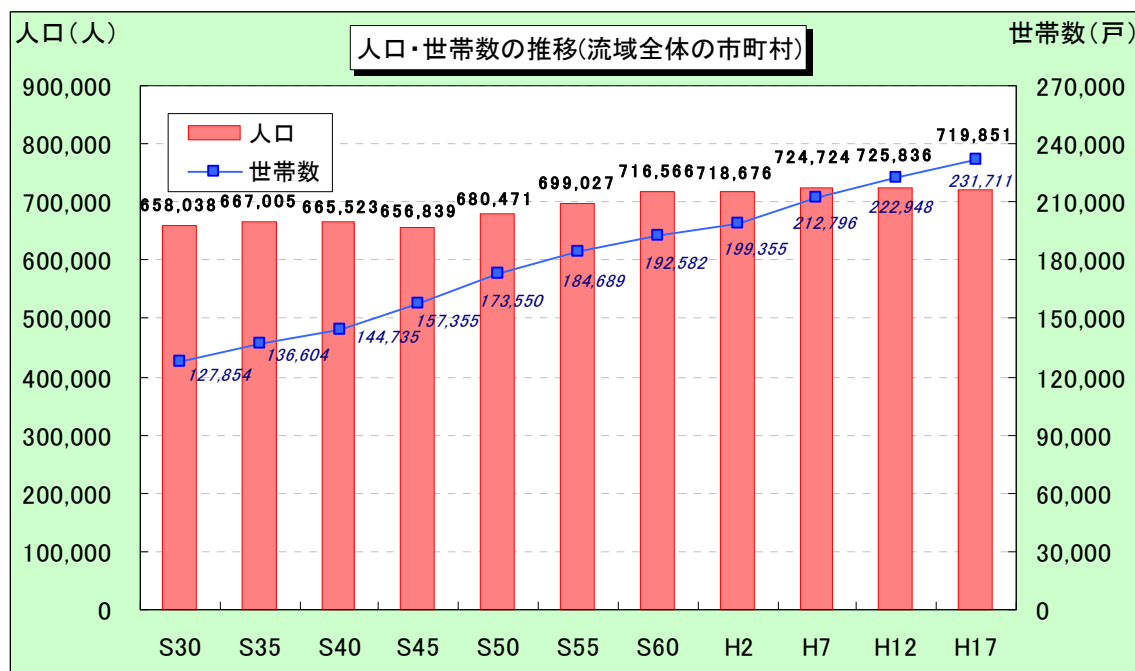


図 2.5.1 (1) 人口及び世帯数の推移

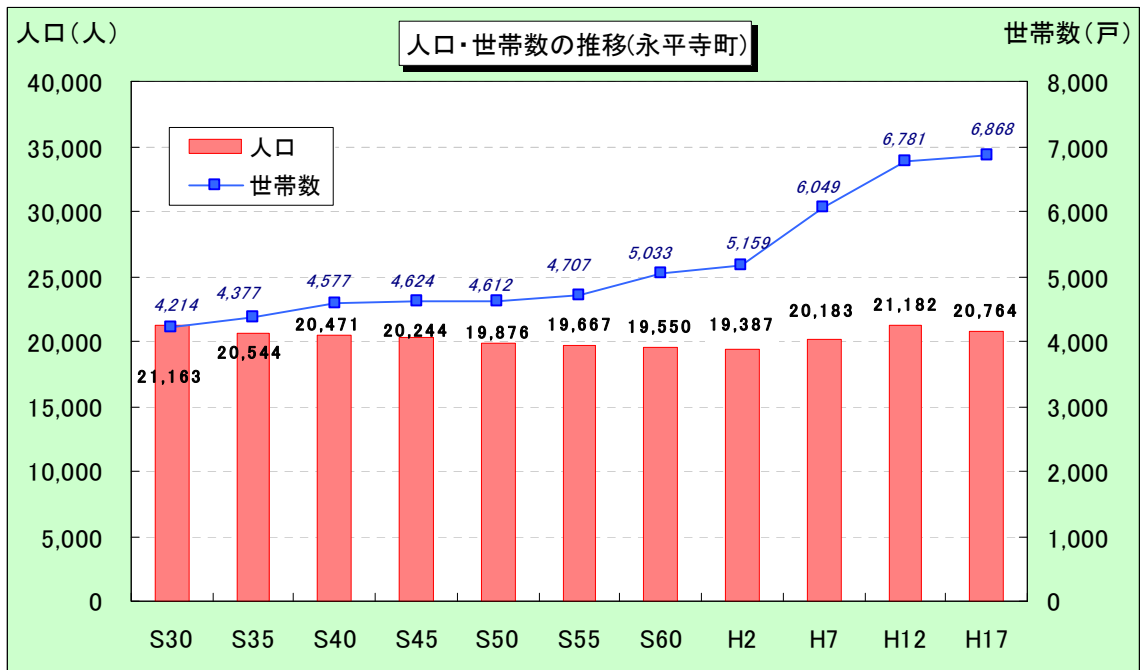
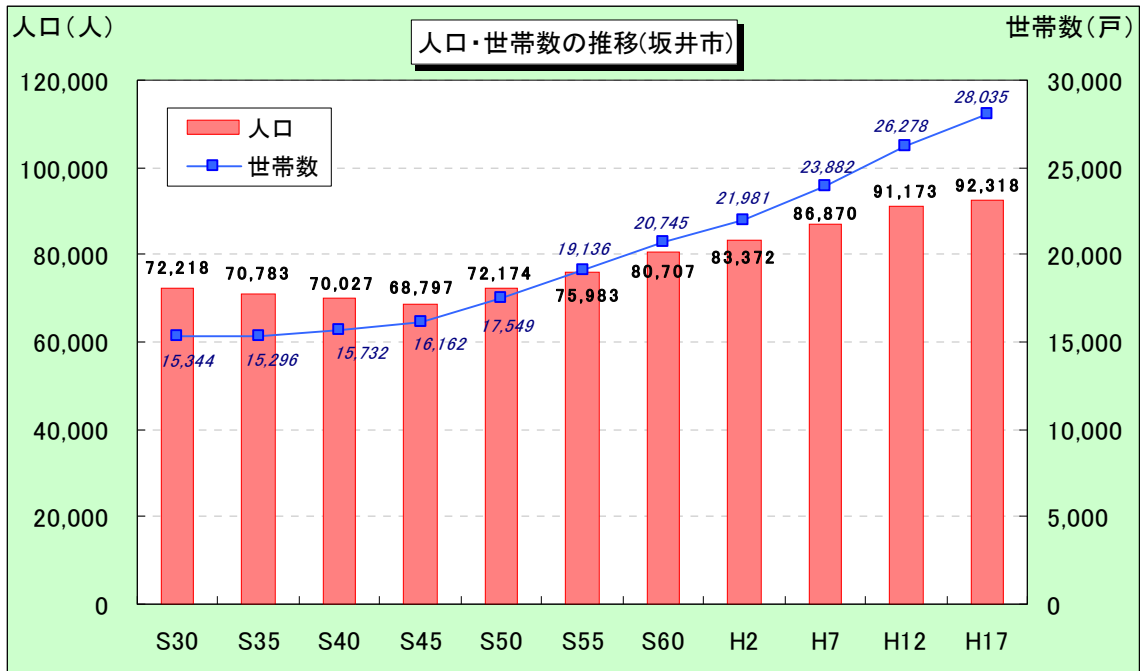


図 2.5.1 (2) 人口及び世帯数の推移

(2) 産業構造の変化

昭和40年（1965）から平成17年（2005）までの間の流域関連市町村ならびに福井市、坂井市、永平寺町における産業別就業人口の推移は、以下に示すとおりである。

就業者人口は、流域全体および福井市、永平寺町においては、平成7年をピークに減少傾向となっているが、坂井市では福井市等からの移住者等により増加傾向にある。

産業別では、第3次産業が全体の約60%を占めており、第2次産業が35%、第1次産業が5%程度を占めており、第3次産業が増加傾向にある。なお、坂井市においては第2次産業も増加傾向が続いている。

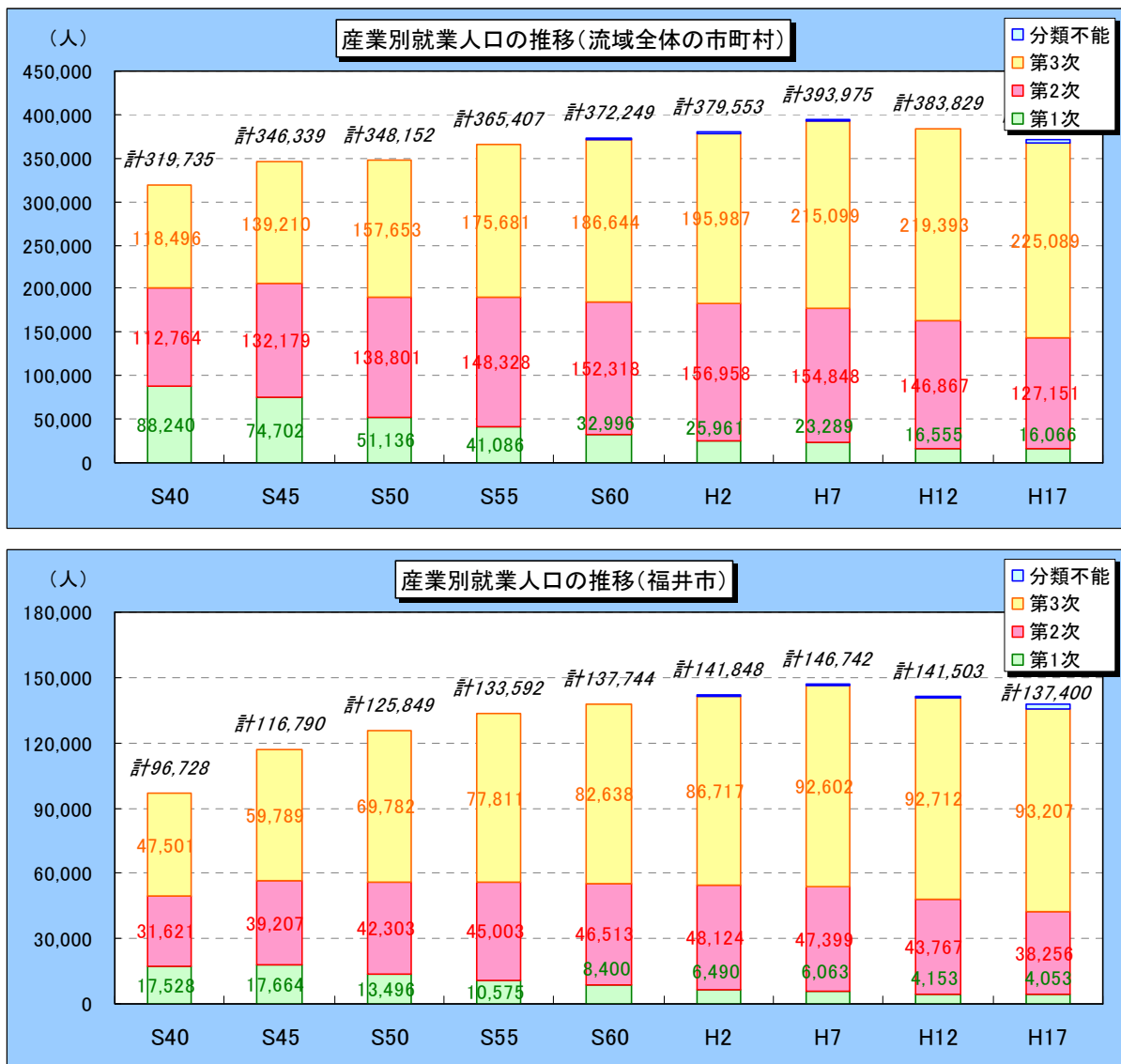


図 2.5.2 (1) 流域全体及び福井市の産業別就業人口の推移

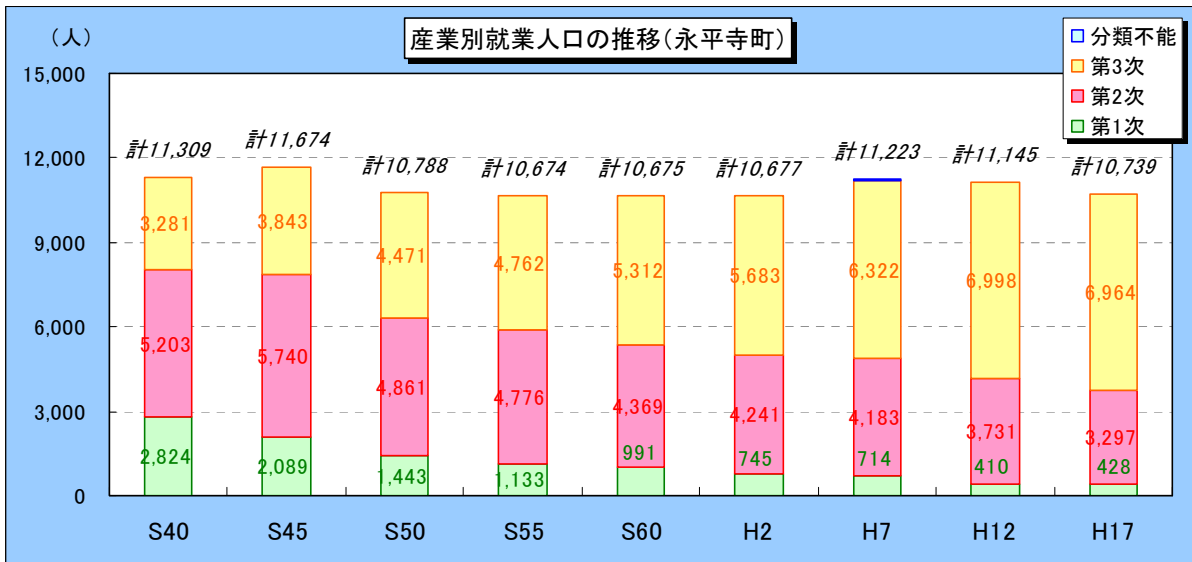
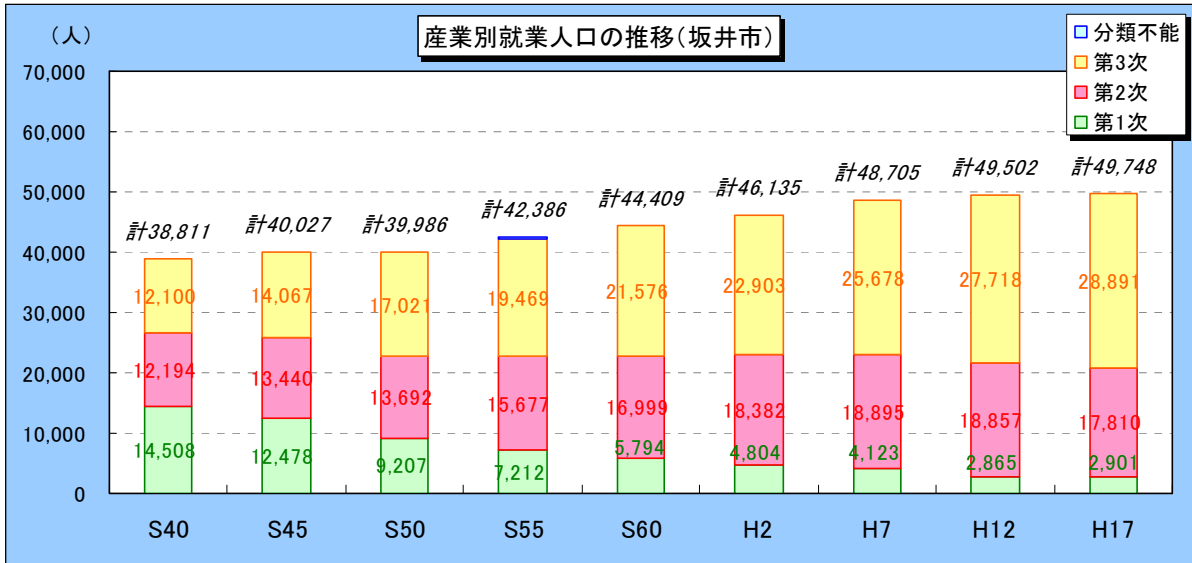


図 2.5.2 (2) 坂井市及び永平寺町の産業別就業人口の推移

(3) 社会情勢の変化

鳴鹿大堰関連事業と地域社会情勢の変遷の概況は下記に示すとおりである。

表 2.5.1 鳴鹿大堰事業と地域社会情勢の変遷

年	鳴鹿大堰関連事業	地域の出来事
H 元.	5月 実施計画調査に着手。 福井工事事務所に開発調査課(鳴鹿大堰担当)設置。 九頭竜川本川区域延長1.6km。合計31.2kmとなる。	福井市市制100周年記念式典 福井市都市景観基本計画策定
H 2	1月 九頭竜川中流堰建設促進期成同盟会が発足 6月 九頭竜川鳴鹿大堰建設事業に着手 12月 大野市がダム使用権設定について申請書提出	足羽川・足羽山公園が「日本の桜百選」に選定、桜つつみ事業着手
H 3	11月 基本計画告示(事業費280億円、工期平成8年度)	足羽山トンネル完成 一乗谷朝倉氏庭園が国の特別史跡に指定
H 4	11月 鳴鹿大堰起工式 右岸取水施設改築工事着手	第四次福井市総合計画スタート
H 5	3月 左岸取水施設改築工事着手	
H 6	3月 九頭竜川鳴鹿大堰本体着工 本体ゲート着工	すかっとランド九頭竜オープン
H 7	3月 中部漁業協同組合と、漁業補償の契約を締結 4月 九頭竜川鳴鹿大堰定礎式 6月 本体内右岸部概成 10月 本体内左岸部概成	
H 8	6月 堰本体概成	
H 9	3月 九頭竜川鳴鹿大堰建設に伴う鳴鹿頭首工(取水施設を含む)の工事施行の変更協定書を締結。	
H 10	2月 基本計画変更が官報告示される。	
H 11	3月 試験湛水(暫定運用)開始 通水式挙行 10月 旧堰撤去(左岸部)工事着手	
H 12	8月 左岸魚道完成	
H 13	6月 旧堰撤去(右岸部)完了	
H 14	4月 資料館がオープン	21世紀を拓くふくい創造プラン(第5次福井市総合計画)スタート
H 15		えちぜん鉄道全線開通
H 16	3月 竣工	福井豪雨災害発生

2.5.2 堰周辺の状況

(1) 堰周辺の施設状況

1) 概要

鳴鹿大堰周辺の施設としては、九頭竜川に関するさまざまな資料を展示している九頭竜川流域防災センター、階段式魚道の様子がみられる魚道観察室、旧鳴鹿堰堤の堰柱を利用して造られた見学橋、鳴鹿橋上流部左岸側(30.5～30.9km付近)に設けられたビオトープ等を整備した。

(2) 九頭竜川流域防災センター（愛称：わくわく RiverCan）

「九頭竜川流域防災センター（愛称：わくわく RiverCan）」は、鳴鹿大堰左岸にある鳴鹿大堰管理所脇に建設され、平成14年4月27日にオープンした。この資料館は、地域の子供たちが九頭竜川について体験的に学べるよう、九頭竜川に関する様々な資料を展示するとともに九頭竜川流域の方々が集える場所として活用することを目的としており、NPO法人「ドラゴンリバー交流会」、「福井陸水生物研究会」とも連携している。



図 2.5.3 九頭竜川流域防災センターの外観

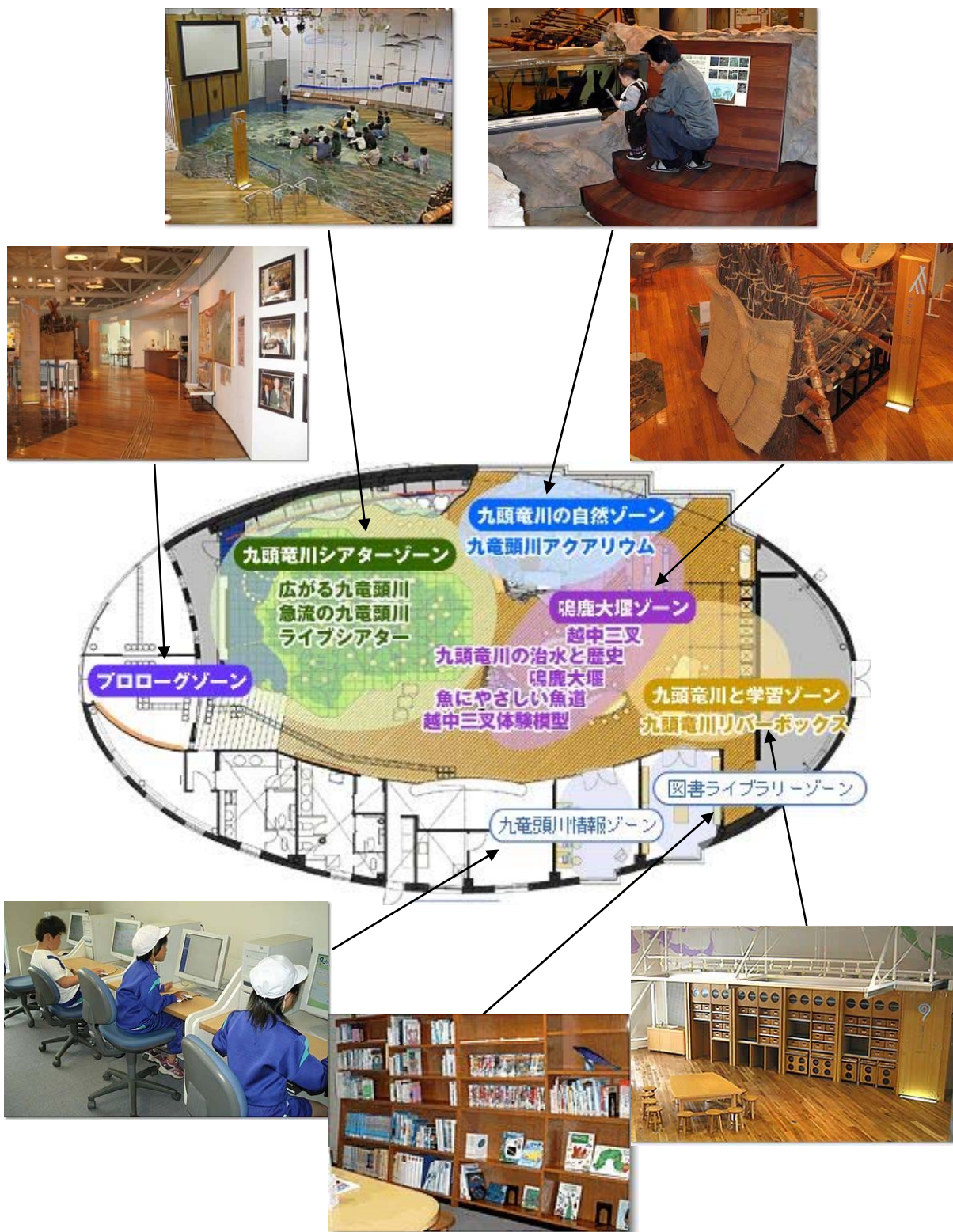


図 2.5.4 九頭竜川流域防災センターの展示施設